

## 田口宏昭教授 略歴ならびに業績目録

### ■略歴

- 1944年7月 大阪府（大阪市）に生まれる。  
 1968年3月 大阪市立大学文学部卒業  
 1973年3月 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学  
 1973年5月～1978年12月 熊本大学専任講師（教養部）  
 1979年1月～1982年3月 熊本大学助教授（教養部）  
 1982年4月～1991年3月 熊本大学助教授（文学部）  
 1991年4月～2009年3月 熊本大学教授（文学部）  
 2007年4月～2009年3月 熊本大学附属図書館館長  
 2009年4月～2010年3月 熊本大学教授（大学院社会文化科学研究科）

### ■業績目録

#### 〔著書・編著書〕

- 2001年、『病気と医療の社会学』、世界思想社  
 2003年、『よき死の作法』（高橋隆雄との共編著、熊本大学生命倫理研究会論集；4）、九州大学出版  
 会、301p.  
 2004年、『「よき死の作法」をめぐって——熊本大学生命倫理研究会討論集』（高橋隆雄との共編著）、  
 熊本日日新聞情報文化センター、170p.  
 2004年、『水俣の経験と記憶——問いかける水俣病』（丸山定巳・田中雄次・慶田勝彦との共編著）、  
 熊本出版文化会館、302p.  
 2005年、『水俣からの想像力——問い続ける水俣病』（丸山定巳・田中雄次との共編著）、熊本出版文  
 化会館、236p.

#### 〔論文〕

- 1972年、「労働をめぐる価値＝態度体系——アノミー論のための一覚書——」、『ソシオロジ』17/3、  
 103-114頁  
 1977年、「聖なるものと現代社会」、『現代生活と社会学的視点』（藤野隆一・千石好郎・丸山定巳編）、  
 葦書房、257-284頁  
 1978年、「地位不整合論と政治的態度——レンスキとケンケルの論争をめぐって——」、『応用社会学  
 の諸問題』、晃陽書房、191-219頁  
 1979年、「組織における専門職」、『熊本大学教養部紀要（人文・社会科学編）』第14巻、79-94（31-46）  
 頁  
 1981年、「専門職組織における分化と統制——病院の組織論的考察に関する覚書」、『熊本大学教養部  
 紀要（人文・社会科学編）』第16巻、27-36頁  
 1983年、「高齢化社会と地域医療」、『熊本開発』41、19-21頁

- 1984年、「病院化された患者役割」、『文学部論叢』12号、1-24頁
- 1988年、「死の臨床社会学・序説」、『文学部論叢』24号、15-31頁
- 1989年、「子供の遊び、子供の組織化」、『文学部論叢』28号、33-64頁
- 1990年、「肺癌病棟におけるコミュニケーション——ある病院調査より——」、『文学部論叢』32号、31-55頁
- 1993年、『医師—患者関係における情報過程と患者の態度』、(科学研究費補助金:一般研究C:研究成果報告書)
- 1994年、「ホスピスと共同性」、『文学部論叢』44号、57-82頁
- 1996年、「地域社会における医薬分業と患者に対する情報開示(上)」、『文学部論叢』52号、1-20頁
- 1999年、「地域社会における医薬分業と患者に対する情報開示(下)」、『文学部論叢』64号、51-66頁
- 1999年、「医療における不確定性と権力」、『持続と変容』(中 久郎編、ナカニシヤ出版)所収、78-92頁
- 2001年、「終末期のケア」、『ケア論の射程』所収、九州大学出版会、117-155頁
- 2003年、「自然葬と現代」、『よき死の作法』所収、九州大学出版会、243-281頁
- 2003年、「医者の説明と説得の技法：——ある事例の分析から」、『文学部論叢』77号、73-103頁
- 2004年、「遠景としての水俣」、『水俣の経験と記憶——問いかける水俣病』(丸山定巳・田中雄次・田口宏昭・慶田勝彦編、熊本出版文化会館)所収、163-196頁
- 2005年、「水と生命の風景」、『水俣からの想像力——問いつづける水俣病——』(丸山定巳・田口宏昭・田中雄次編、熊本出版文化会館)所収、44-70頁
- 2005, Taguchi, Hiroaki, *The Natural Funeral (Shizensou) in Japan Today : The Movement, Background, and the Next World*, ed. By Takahashi, Takao, “*Taking Life and Death Seriously Bioethics from Japan*”, Elsevier, pp. 225-252
- 2005年、「離島の近代化と地域ケア——沖縄県渡嘉敷島の場合」、『地域ケアにおける「のさり」文化の機能とその変容』(熊本大学大学院社会文化科学研究科 プロジェクト研究)所収、23-36頁
- 2005年、「偏頭痛という経験——ある事例の社会学的分析」、『文学部論叢』85号 123-137頁
- 2006年、三間屋純一、田口宏昭、徳永信一、川田龍平、栗岡幹英、白幡 聡、郡司篤晃共著、「薬害エイズ問題から見えてくるもの——医療安全の視点からの検証と教訓——」、『日本エイズ学会誌』8巻、67-77頁
- 2007年、「終末期の癌患者と相互作用——情報収集と意思決定に焦点を合わせて——」、『文学部論叢』92号、53-91頁
- 2007年、『ストレスの社会・文化的規定性とそれへの適応過程に関する研究』(平成15年度～18年度科学研究費補助金研究成果報告書) 109p.
- 2008年、「自然災害とストレス—ストレス対処における意味及びシステムの弾力性(resilience)を中心に—」、『文学部論叢』96号、37-65頁
- 2009年、「強い患者の適応戦略」、『文学部論叢』100号、15-40頁

## 〔翻訳〕

- 1975年、共訳、ロバート・A・ニスベット『社会学的発達の系譜Ⅰ・Ⅱ』(全2冊、中 久郎監訳)、

「第6章 聖なるもの」を分担翻訳 (Robert A. Nisbet, *The Sociological Tradition*, Basic Books, 1966)  
 1982年、共訳、G.パリュ『政治エリート』(中 久郎ほか)、「第6章 エリートと民主主義理論」を  
 分担翻訳 (Geraint Parry, *Political Elites*, George Allen & Unwin (Publishers) Ltd, 1969)

〔調査報告書等〕

- 1974年、「労働者の生活と労働の実態」、『熊本市工業振興基本調査報告書』(熊本市)、67-85頁  
 1977年、「就業人口の構造」、『熊本県の人口構造とその変動』(財団法人 熊本開発研究センター、研究シリーズ第8号)、51-70頁  
 1977年、「熊本県の人口の予測」、『熊本県の人口構造とその変動』(財団法人 熊本開発研究センター、研究シリーズ第8号)、71-85頁  
 1979年、「仕事・生きがい」、『老人総合実態調査報告書』(熊本市)、17-26頁  
 1993年、『終末期医療・看護のあり方と患者・患者家族の行動と意識についての社会学的研究』(平成1年～平成3年度科学研究費補助金研究成果報告書)、63p.  
 2000年、『終末期の医療を考える』(田口宏昭編、熊本大学生命倫理研究会シンポジウム報告書)、76p.  
 1999年、『参照システムが医療行動に及ぼす影響の研究』(平成7年～平成10年度科学研究費補助金研究成果報告書)、19-21頁  
 2004年、「御所浦町における地域ケア——住民編——」『障害文化としての「のさり」』(平成13年度～平成15年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究代表者：竹熊千晶)) 所収、15-59頁

〔事典・エッセイ・書評等〕

- 2001年、「アメリカの遺体処理エンバーミングはどのように進められる」医療文化研究センター 佐藤純一編『100問100答 医療のふしぎ』、河出書房新社、167-170頁  
 同上、「自然葬のもつ意味」、170-172頁  
 2004年、「離島の近代化と地域ケア」、『ソシオロジ』48巻 3号、127-130頁  
 2005年、書評：南里義則著『くもの糸 北御門二郎聞き書き』(不知火書房)、西日本新聞